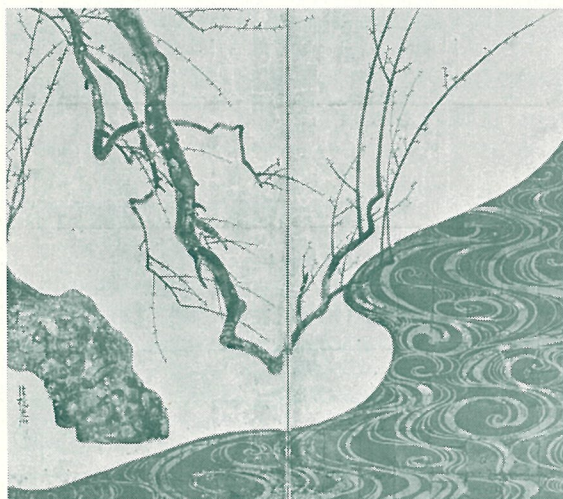


文部省選定

日本産業映画コンクール奨励賞

海に見える美術館

—MOA美術館—



国宝「紅白梅図屏風」尾形光琳

16ミリ カラー 30分
¥180,000

■すいせんの言葉

映画評論家 大内秀邦

この種の作品は、ガイドの役目を果たせばよいと言うだけでなく、観客に実際に
行って見たいとの気持ちを起こさせるものでなければならない。そういう意味で、
この映画はまさに完璧と言える。

熱海の瑞雲郷という海に見える地の利に加え、傾斜地を利用した近代的な建築美
と行き届いた設備が既に魅力的である。所蔵された美術品が、日本美の特質がいか
にして生まれたか、その足跡を中国との関係から琳派や浮世絵まで系統的にたどっ
ているので、いながらにして知識を与えられる。

そして、梅園から始まる四季の変化が美しく、日本人の生活や美術と自然との縁
の深いことを、しみじみと感じさせるし、室内が中心の構成に屋外画面の挿入が気
分転換の役目を果たしている。さらに美術と関係の深い茶の湯や能も楽しめる設備
など、きわめて多目的であり、一般の美術館のようにさらっと見るのではなく、ゆっ
くり一日を過ごしたくなる。美術館そのものの題材と映画としての表現とが美事に
調和した作品である。、『キネマ旬報』より)

企画 M G C
製作 桜映画社

対象：中学生 高校生
成人

用途：美術
一般教養

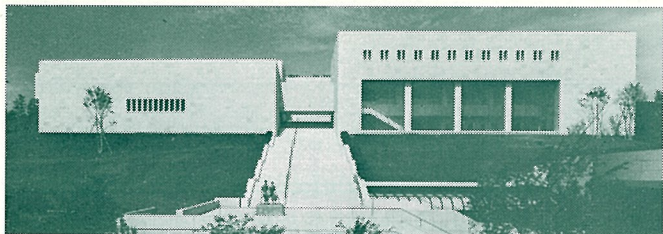
製作

株式
会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿1-22-1
スタンダードビル TEL 03(342)5768

配給



■製作意図

この映画は、1982年1月に熱海の山手の風光明媚な場所に完成したMOA美術館を紹介するものだが、この美術館には創立者の岡田茂吉が戦後の混乱期に海外に流出しようとした日本美術の名品を精力的に蒐集した3000余点が収蔵され、常時陳列されている。中国美術の名品も多く、日本の美術品も絵画、書、彫刻、陶磁器等多彩だが、とくに日本美を代表する近世のすぐれた作品が多い。日本美術のすぐれた美によって日本人の魂を浄化することは創立者の悲願であった。

■あらすじ

朝の美しい海と、朝の光に赤く染ったインド産砂岩の美しい美術館の外観から映画は始まる。美術館をとりまく傾斜地の広い庭園は光琳の画風を表現したものといわれ、早春の梅園からはじまって、桜、つつじ、萩など四季の花にも恵まれている。その日本の自然の美しさも四季の変化も、画材となり或はデザインにとり入れられているので、外の自然と中の美術品の美がときには密接な一体感を見る者に感じさせる。

数多い美術品の紹介も羅列に陥らぬよう、中国美術のきびしい美から、日本美術の優美な美しさや装飾性がどうして生まれたかがおのずと分るように構成されている。



「湯女図」

■主な収録美術品(収録順)

- 「王と王妃」ヘンリー・ムア
「春」マイヨール
重文「樹下美人図」中国・唐時代
重文「高士観月図」伝馬遠 中国・南宋時代
重文「山水図」伝馬遠 中国・南宋時代
「花鳥図」伝銭選 中国・宋時代
重文「釈迦八相図」鎌倉時代
重文「八字文殊菩薩及八大童子」鎌倉時代
重文「四季山水図屏風」海北友松 桃山時代
重文「樓閣山水図屏風」海北友松 桃山時代
「柳橋図屏風」桃山時代
重文「過去現在絵因果経断簡」奈良時代
重文「仮名消息」藤原俊成 平安時代
「石山切」藤原定信 平安時代
国宝「手鑑 翰墨城」奈良～室町時代
重文「聖観音立像」平安時代
重文「阿弥陀如来及両脇侍坐像」平安時代
重文「北方天眷画像」康円 鎌倉時代
「睡蓮」モネ
「青磁大壺」郊壇窯 中国・南宋時代
「青磁天鵝壺」越州窯 中国・六朝時代
「黒釉弁口龍耳壺」中国・唐時代
「唐三彩鳳首壺」中国・唐時代
重美「白地鉄牡丹蝶文瓶」中国・宋時代
重美「青白磁蓮花文皿」中国・北宋時代
重文「黒釉金彩瑞花文碗」中国・北宋時代
重美「金襴手瓢形瓶」中国・明時代
「青磁象嵌菊花文托と盞」朝鮮・高麗時代
「釘彫伊羅保茶碗」朝鮮・李朝時代
国宝「色絵藤花文茶壺」野々村仁清 江戸時代
重美「鍋島 色絵桃花文皿」江戸時代
重美「九谷 色絵酒宴文皿」江戸時代
重文「樵夫蒔絵硯箱」伝本阿弥光悦 桃山時代
「鹿下絵和歌巻」本阿弥光悦 桃山時代
「水禽図屏風」尾形光琳 江戸時代
「秋草図屏風」尾形光琳 江戸時代
「雪竹図屏風」尾形光琳 江戸時代
国宝「紅白梅図屏風」尾形光琳 江戸時代
重文「花見鷹狩図屏風」雲谷等顔 桃山時代
「機織図屏風」江戸時代
重文「湯女図」江戸時代
「舞妓図」江戸時代
「美人若衆図」宮川長春 江戸時代
重文「婦女風俗十二ヶ月の図」勝川春章 江戸時代
重文「洋人奏楽図屏風」桃山時代
重文＝重要文化財 重美＝重要美術品

■製作スタッフ

- 製作……………村山英治 村山英世
脚本／演出……………村山正実
撮影……………藤井敏貴 村山和雄
照明……………本橋俊男
音楽……………湯浅譲二
解説……………江守 徹
編集……………沼崎梅子